

『大津絵 民衆的諷刺の世界』

クリストフ・マルケ著 楠瀬日年絵

角川ソフィア文庫 1400円

江戸時代に全国的な人気を

博していた無銘の庶民絵画がある。東海道のお土産として売られていた大津絵だ。本書では、フランス人の研究者が

大津絵の歴史と魅力を分かりやすく解説する。

初期は神仏画として、のちには護

符的な役割を持つ世俗的な絵

として庶民の日常に浸透した。無名の絵師たちは絵を手早く量産するため、線や色を大胆に省略していく。その結果、

つている。

念仏を唱える鬼、鬼に豆を撒かれて逃げ惑う神、酒に飲まれた鼠に嬉しそうに肴を差し出している猫。面白可笑しい図像から伝わってくる大津

絵に登場する神々や鬼たちは、今日の「ゆるキャラ」のように

絵特有の諧謔と諷刺の精神は、今でも色褪せていない。

親しみやすくユーモラスな雰囲気

を放つ。大津絵の魅力を存分に楽しめる良い入門書だ。(すんみ)

